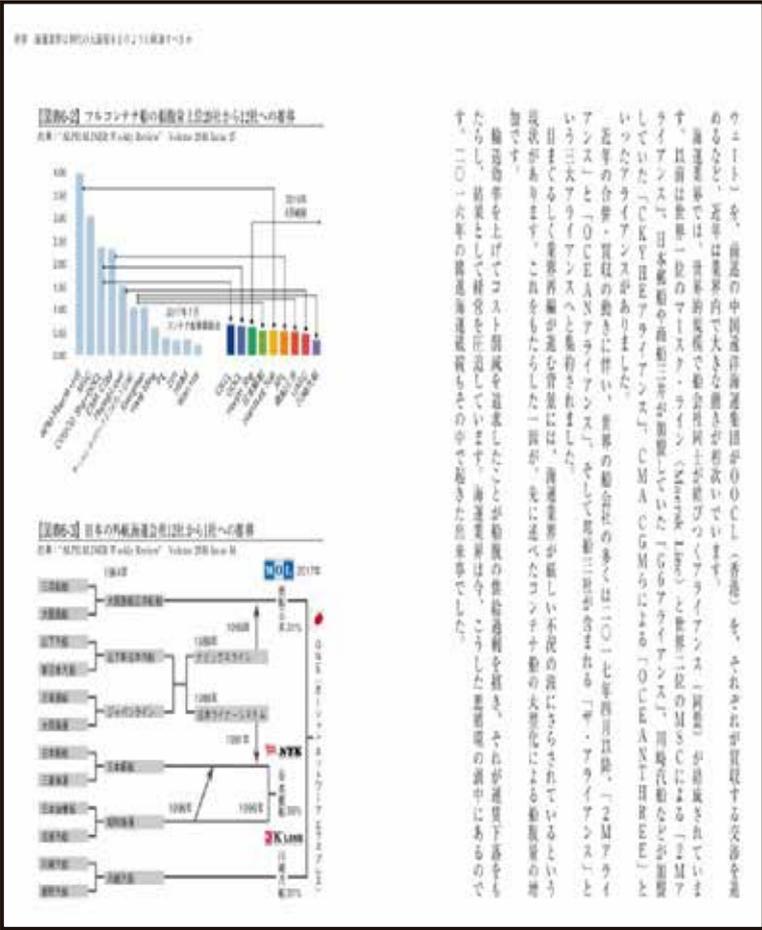


弊社ジャパントラストの代表者 菅 哲賢 がマジメ?!に執筆した書籍が、ダイヤモンド社より出版されました。アマゾン、楽天で発売中です。



『最適物流の科学』
 舞台は3億6106万km²、
 海を駆け巡る「眠らない仕事」
 ◆ISBN:978-4-478-08429-8
 ◆四六版・上製
 ◆1,500円(税別)
 ◆発行:ダイヤモンド・ビジネス企画
 ◆発売:ダイヤモンド社
 著者:菅哲賢
 ジャパントラスト株式会社代表取締役社長

「最適物流の科学」

- 序章 舞台は3億6106万?。海を駆け巡る「眠らない仕事」
- 第一章 物流の歴史、進化とともに歩んだ「海上輸送」
～海運業とはいかなるビジネスなのか
- 第二章 船を持たない海上輸送のプロフェッショナルたち
～国際物流で重要になるフォワーダーの果たす役割
- 第三章 荷主が知っておきたい海運会社の種別と特徴
～物流の依頼で押さえておきたい三つの基準
- 第四章 海運会社の実力がわかる三つのポイント
～イレギュラーな事態にはどう対応するか
- 第五章 一問一答。海運業への疑問に答えます
～基礎編から応用的な物流依頼まで
- 終章 海運業界は時代の大海原をどのように航海すべきか
～国の生命線を守れ!

ジャパントラストかわら版

情熱羅針盤

vol.155



本書は船を持たない国際海運会社(NVOCC)・ジャパントラスト株式会社代表者が設立以来22年間、多くの企業から寄せられた多種多様な課題、マスメディアからは得ることができない海運業界の実態を徹底解説。

実際の取引事例を紹介しながら、物流・海運業の過去・現在・未来を明らかにすることで、「最適物流」とは何なのかを伝える。併せて、海運業界の現状と当面の課題、将来的な「あるべき姿」について著したものである。物流業以外の一般のビジネスマンや輸出入業務にたずさわる新入社員の教科書的な内容にもなっている。

海 運 豆 知 識 ～24時間ノンストップ航海の秘密～



一度港を出た貨物船は、なにか致命的な故障でも起きない限り、目的地に着くまで止まらない。では、その船を動かす船員も、毎日24時間、不眠不休で働いているのだろうか。そんなことはもちろん不可能だ。船内の就労体制も、陸上と同じように8時間勤務が原則になっている。ただし勤務形態は、陸上とはだいぶ違っている。

その辺の事情を、11名という世界でも最小の人員で運航されていたパイオニアシップを例にみてみよう。

まず船の運航で最も重要なブリッジでの航海当直。これは運航士(航海士と機関士を兼ねる職員)と船舶技士各1名からなる3つのチームが4時間づつ交代で勤務する。つまり各チームは4時間働いて8時間休むというサイクルを1日2回繰り返すことになる。次にエンジンルーム。かつてはこちらも専任の当直があったが、近年の技術進歩でそれをブリッジで行うようになり、運航士の資格を持った1等機関士が朝8時から12時、13時から17時の8時間で、エンジンの点検・整備などを行っている。通信長の勤務は朝8時から12時、15時から17時、19時から21時、の都合8時間とやや変則的。司厨長の場合は、クルーの食事時間に合わせ朝6時半から9時、10時半から13時、15時から18時となっている。残るは船長と機関長だが、こちらは当直は無いが、24時間執務体制である。

こうした船員の生活は、陸上で働くサラリーマンと比べればかなり変則的だが、突発事件がなければ、交代のサイクルが正確に繰り返されるため残業がない。この点では、サラリーマンの生活よりも健康的だといえるかもしれない。

